

なつやすみ★おススメ本

# 夏に<sup>2017</sup>よむよむ

長い夏休み！ 何にチャレンジする？  
図書館で本を借りて、読書もおすすめ！  
本の世界で「自分時間」を過ごしてみない？

ティーンズ版  
(中学生向け)

## 東近江市立図書館

- 八日市 (0748-24-1515)
- 能登川 (0748-42-7007)
- 五個荘 (0748-48-2030)
- 永源寺 (0748-27-8050)
- 蒲生 (0748-55-5701)
- 湖東 (0749-45-2300)
- 愛東 (0749-46-2266)

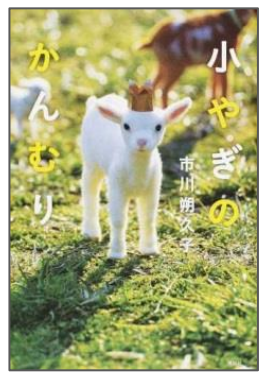


### 『シロガラス』 佐藤多佳子/作 (偕成社)

6年生の千里、星司、美音、数斗、礼生は白烏神社の剣士、舞い手に選ばれた。早朝、犬の散歩で境内にやってきた星司はカラスの集団に攻撃されている一羽の白いカラスを助ける。それが、すべてのはじまりだった……。  
現在④巻まで刊行中です。

### 『小やぎのかんむり』 市川朔久子/作 (講談社)

都会の女子校に通う夏芽は、暴君のような父から逃れるため、夏休みに親友と勉強合宿に参加するはずだった。それが色々あって、ど田舎のお寺のサマーステイへ行くことに。しかも参加者は自分だけ！ だけど、小さな男の子がとびこんできたり、山羊を連れた高校生が加わったり、なんだかにぎやかになってきて……。



### 『てんからどどん』 魚住直子/作 (ポプラ社)

ほが朗らかな性格でクラスの上位グループにいるけれど、自分の言葉を友だちにとがめられた高倉かりん。もっさりした天然パーマに太い脚、クラスで埋没して、修学旅行を心から恐れる今井莉子。同じマンション、同じクラス、同じ中学2年生なのに正反対なふたりの中身が、なんと入れかわってしまった！



### 『僕は上手にしゃべれない』 椎野直弥/作 (ポプラ社)

「じゃあ、一人ずつ自己紹介してくれ」。新学期、先生の言葉に悠太の胸はドクンと鳴った。言える、言える、大丈夫。必死で言い聞かせるけれど、やっぱり言えない。悠太は言うべき言葉はわかっているのに、声にだせない「吃音」という問題を抱えていた。

### 『車夫』 いとうみく/作 (小峰書店)

「おまえ、車夫やらないか？」  
両親が蒸発し、高校を中退せざるを得なかった吉瀬走に、陸上部OBの前平が声をかけた。親方のひく人力車に乗り、そのなんともいえない気持ちよさを体感した走は、車夫（人力車のひき手）の世界に飛び込む決意をする！



続編の『車夫2』もあります。





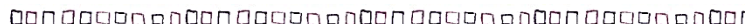
『Q→A』 草野たき/作 (講談社)

「Q. 中学生生活最後の学年です。これからどんな一年にしたいですか？」中学3年の悩みといえば、受験。でもそれだけでなく、恋愛とか部活のこととか、他にもたくさんある。そんな悩み、どうしたらいい？ある5人の悩み(Q)と答え(A)を追った物語。



『ニッポンの刑事たち』 小川泰平/作 (講談社)

テレビドラマや小説には、緻密な推理やド派手なアクションで事件を解決する刑事が数多く登場しますが、実際はどうなのでしょう？尾行や張り込みのテクニックから、犯罪の種類によって異なる捜査方法まで、リアルな刑事たちの姿を元神奈川県警の刑事さんが教えてくれます。



『わたしがここにいる理由』 片川優子/作 (岩崎書店)

お嬢様学校に入った璃湖は雰囲気の違いに馴染めない。サッカー部の一輝の前には天才型の同級生が現れ、おとなしい彩加里はキラキラした友だちに追いつこうと必死。新しい生活の中で、それぞれの居場所を見つけるために頑張る中学1年生3人の物語。



『シャクルトンの大漂流』 ウィリアム・グリル/作 (岩波書店)

1914年、世界初南極大陸横断へと乗り出したアーネスト・シャクルトンと隊員たち。ところが途中、氷の塊に阻まれた船は大破してしまいます。過酷な環境の中、生きる希望を失わず、困難を乗り越えていく様子を描いたノンフィクションです。



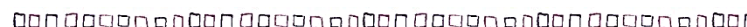
『夜間中学へようこそ』 山本悦子/作 (岩崎書店)

ひよんなことから、おばあちゃんと一緒に夜間中学へ通うことになった中1の優菜。おばあちゃんが勉強？あたしと同じ中学1年生？でも、そこで出会ったのは、年齢も国籍もバラバラだけど魅力的な中学生たちでした。



『十三番目の子』 シヴォーン・ダウド/作 (小学館)

“一人の女が産んだ、十三番目に生まれた子を、十三回目の誕生日に、いけにえにささげよ”村の言い伝えによって、いけにえになることが決まっているダーラが、13歳の誕生日の前日、黒い鳥に導かれて知った真実とは……。



『青空のかけら』 S・E・デュラント/作 (すずき出版)

弟と児童養護施設へ預けられたミラは、床下から手紙を発見します。それは42年前に施設で暮らしていた女の子が書いたものでした。そんなとき、ある女性の家へ弟と泊まりに行くことが決まって……。どんなときも未来を信じ、幸せをつかんだ少女の物語。



『文房具のやすみじかん』 土橋 正/作 (福音館書店)

色えんぴつは「えんぴつ」なのに消しゴムで消せない。どうしてだろう？普通のボールペンと消えるボールペンは何がちがうの？とっても身近なのに、実は知らないことだらけ。知れば毎日の勉強が楽しくなる！？君の知らない文房具の世界をのぞいてみよう。

